

お、お、お、おかあさん

凹凸KIDSお助け隊

りーーんご
た、た、た、食べたい

ことばがつかえる



こんな話し方になることはありませんか？

- ①「ボ、ボ、ボ、ボール」などはじめの一音を繰り返す
- ②「おーーーかあさん」のように引き伸ばす
- ③「・・・っぼくは」のようにはじめの一語がなかなかでない

それは吃音かも
しれません



吃音（きつおん・どもり）とは

言いたいことが頭に浮かんでいるのに、滑らかに話せない状態のことです。2～4歳の間に人口の5%（20人に1人）に発症し、3歳児健診の時は約3%（30人に1人）の割合で存在します。発症後3年で7～8割の子が自然回復しますが、残りは幼児期を過ぎても吃音が持続します。

吃音の原因ははっきりと特定されておらず、親の育て方で吃音になるという考えは誤りです。



話し方のアドバイスをする（ゆっくり、落ち着いて、など）

ゆっくり話せばどもる量が減るのではないかと考え、よかれと思って「ゆっくり話して」とアドバイスしてしまうものです。しかし、発話の未熟な幼児は、発話スピードをコントロールすることが難しいです。

言い直しをさせる

言い直して、どもらずに言えると、効果があると思うかもしれませんが、しかし、言い直しにより吃音が治ることはなく、逆にストレスを与えることになります。

どもった真似をする

わざとやっているわけではないのに、真似をしてからかうことは幼い心を傷つけます。



家族ができること

聞き上手、ほめ上手になろう

どもっていても、相づちや復唱を交えながら最後まで話を聞いてあげてください。また、お手伝いなど出来たことを褒めることで自己肯定感が増し、話す意欲もアップします。



吃音で困ったら

吃音が半年以上続いている場合や、対応に迷ったり、気になることがあればお気軽にご相談ください。言語聴覚士が年齢や発達に合った関わり方、保育園・幼稚園や学校における対応方法などを一緒に考えていきます。

出典：「エビデンスに基づいた吃音支援入門」学苑社 菊池良和＝著

相談・問合せ先：射水市子ども発達相談室 Tel.0766-52-7415

射水市幼児ことばの教室 Tel.0766-52-7414